

四條遺跡 第36次・藤原京右京四條六坊

発掘調査 現地説明会資料

2017年11月23日

奈良県立橿原考古学研究所





写真1 飛鳥時代の遺構（新規掘削部分 上が北）



写真2 西六坊坊間路（北から）



写真5 四条1号墳内濠内須恵器出土状況（東から）



写真3 井戸6（南から）



写真4 建物16（北から）

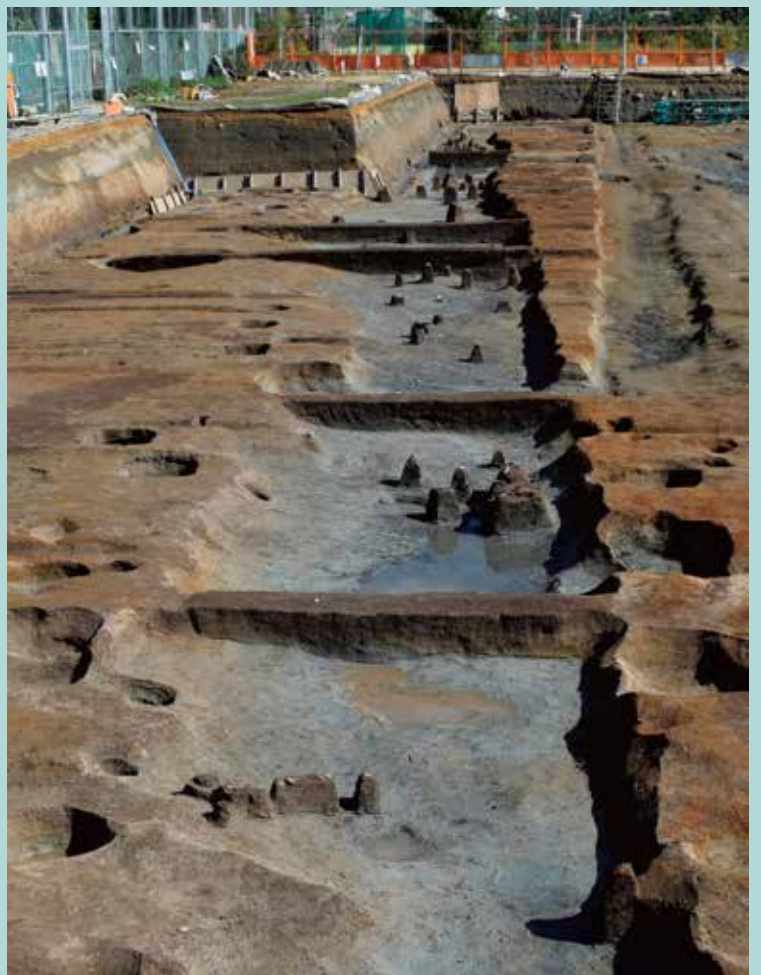


写真6 四条1号墳外濠（西から）

はじめに

四条遺跡・藤原京右京四条六坊は、橿原市四条町に所在します。今回、医大・周辺まちづくりプロジェクト事業にともなう調査を実施しました。

調査範囲は、1987年に実施された第1次調査区と重複する約3,000㎡と、新規掘削部分約400㎡の計約3,400㎡です。

発掘調査の結果、新規掘削部分で新たに、飛鳥時代の掘立柱建物3棟、塀2条、井戸3基、区画溝1条、古墳時代の四条1号墳の外濠を検出しました。

調査の成果

① 四条1号墳

●墳丘 方形の墳丘の西側に、台形の造出(つくりだし)が取り付く“造出付方墳”です。墳丘規模は、南北長約32m、東西は造出部分を含めると約40mになります。

墳丘は削平されており、盛土は確認できません。墳丘や周濠部分の上には、飛鳥時代の条坊道路や建物などが造られました。このことから、藤原京造営に伴い墳丘が削平され、周濠も埋め立てられたと考えられます。

●周濠・周堤 内濠と外濠から成る、二重の周濠をもちます。

内濠は、古墳の周囲を巡るように掘られています。現状での規模は、幅約6m、深さ0.8～1.2mあります。西側は造出があったために広く、最大幅約14m、深さ約1.0mあります。内濠には、各辺に1ヵ所ずつ高さ0.2～0.5mの陸橋状の高まりがあります。これらの高まりは、墳丘への通路と考えられます。第1次調査では、内濠から大量の鳥形・盾形・刀形・鉾形等の木製品が出土しました。これらの木製品は、古墳築造当時、周濠内もしくは墳丘上に樹立されていたものです。

外濠は、第1次調査で東辺と南辺の一部を検出していました。今回の調査で、新たに北辺の外濠を検出しました。北辺の規模は、最大幅約6m、深さ約0.5mで、内濠に比べると浅くなっています。墳丘からみて外側に向かって浅くなることから、内濠と外濠の間には土を

盛り上げた周堤が本来あり、周堤外斜面の成形を主な目的として造られたことが分かりました。

周堤は現状で幅約6mであり、墳丘同様に削平されていました。外濠からの遺物の出土が少ないことから、周堤の外寄りには埴輪や木製品などは、樹立されなかったと考えられます。

●築造時期 今回の調査で、新たに周濠内から古墳時代の土器が出土しました。これらの土器から、四条1号墳は、5世紀末頃に造られたことを再確認しました。

② 飛鳥時代(藤原京)の遺構

●道路 藤原京にともなう条坊道路である四条大路と西六坊坊間路を検出しました。四条大路は、南側溝および北側溝を検出し、路面幅は、14.5m～14.8mに復元できます。西六坊坊間路は、坊内を東西に二分するもので、路面幅約5.5mです。

●建物 新たに3棟の掘立柱建物を検出しました。第1次調査と合わせて、掘立柱建物は計18棟になります。柱穴が重複する建物もあることから、2時期以上に分けることができます。

●井戸 新たに3基の井戸を検出しました。第1次調査と合わせて、井戸は計6基になります。このうちの井戸6では、板材を組み合わせた井戸枠が残存します。

●区画施設 建物等を区画する溝や塀を検出しました。このうち、塀1・3・13は、四条大路や西六坊坊間路に併行するように設置されており、条坊道路と宅地との間を区画する目的で設置されたものといえます。

まとめ

今回の調査で、四条1号墳のほぼ全容が判明しました。規模は、外濠を含めると南北約60m、東西推定75mで、四条古墳群の方墳の中では最大級の古墳です。また、周濠内から出土した土器から、5世紀末頃の築造であることを再確認しました。

その後、飛鳥時代後半から末(天武・持統朝頃)には、藤原京の造営により四条1号墳の墳丘は削平され、条坊道路に区画された宅地が造られ、掘立柱建物、井戸、塀などが配置されました。

